

## 申 6 号『武蔵野線吉川駅下りホームの安全性向上』を求める緊急申し入れ

1. 6月3日に発生した吉川駅下りホームでの事故以降、大宮支社や関係職場で検討・実施しているソフト面やハード面の対策について明らかにすること。

会社回答：これまでも安全対策に取り組んできたところである。引き続き、問題が生じた場合等は関係箇所と調整を行い、必要に応じて対応する考えである。

2. ドア扱いに関する事象を防止するため、吉川駅下りホームの立ち番の配置やITVモニターの取替、画角調整や明度調整等による安全性の向上を早急に行うこと。

会社回答：必要な設備については整備しているところである。引き続き、必要に応じて対応していく考えである。

組) 吉川駅を調査して様々な乗務線区が他山の石としているが、調査の経緯は？

会) 6月の吉川駅の事象の前から乗務員の発意で決まっていたこと。6月の事象は乗務員としてやるべきことをしっかりやっているの、乗務員に過失はない。

組) 6月の痛ましい事象から9月にあわやという事象が発生している。さいたま車掌区では10月の訓練で一報を知るのだが、同駅で続きざまの事象なので周知に速報性があると思う。なぜそこまでタイムラグがうまれるのか？

会) 9月の事象はお客様の声が届いてから調査が始まった。その時点でタイムラグがあったが、調査して解明したことが、車掌は非常引きスイッチを扱える事象ではなかったことがわかった。事象としては速報性がない。しかし、安全を軽視して情報周知をしない訳ではない。安全に関する事象は優先順位が優位である。今後は速報性があるというものは判断して情報提供していく。

組) この短期間で吉川駅での事象が連続発生している。会社として設備面での対策というのは考えているのか？

もう少し何か出来たのではないかな。防げる事象だったのではないかな。

会) 吉川駅で過去を遡っても、下り線で事象が発生しているというのは見られなかった。設備面でもITVが見えづらいという声もあがっていない。設備を見直すというスケジュールは当面ない。

組) 吉川駅のITVは起動してどのくらいで行き過ぎてしまうのか？

会) 1m

組) 停止位置目標を多少前より移動できれば映り方、画角、視認性など変わってくると考える。

組) 浦和東営業統括センターに組織再編された安全性的メリットはあるのか？

会) 複数の駅を勤務することが可能になり、合同勉強会ができるようになった。

組) 吉川駅は委託駅で、限られた社員数でやっているという状況。アナウンスでのホーム上の注意喚起や警備員の巡回等できる限りの対策はやっているのか？

会) 警備員は必要により配備している。駅の自動放送は現在どのような案内をしているかは把握していない。

組) 吉川駅という特状がある。数駅、混雑している駅の乗降を扱って、ふと乗降が減っていく駅。乗務員として一番危険が潜んでいると考える。

会) 現場指導も同じ認識。そういった視点を含めた訓練内容になることが理想。乗務員職場が同レベルの教育がいきわたる様に支社としても資料のチェックをしている体制をとっている。